



ぎふ保環研だより

ダニ媒介感染症

「ダニ媒介感染症」とは、病原体を保有するダニに刺されることで感染・発症する感染症の総称です。ダニの仲間は、家庭内を含む様々な環境に生息していますが、感染症を媒介するダニ（マダニやツツガムシ）は屋外に生息しています。



タカサコキラマダニ(若虫)
(出典：国立感染症研究所)

ダニ媒介感染症のうち、いくつかの疾患は、感染症法で届出対象疾患に指定されており、患者を診断した医師は保健所へ届出を行う義務があります。日本では、つつが虫病、日本紅斑熱、重症熱性血小板減少症候群(Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome；SFTS。平成25年に届出対象に追加)が多く報告されています。そのほか、一部地域で見られるライム病やダニ媒介脳炎、海外で見られるクリミア・コンゴ出血熱やロッキー山紅斑熱が届出対象に指定されています。

日本でみられる主なダニ媒介感染症の特徴

	つつが虫病	日本紅斑熱	SFTS	ライム病
媒介するダニ	ツツガムシ	マダニ	マダニ	マダニ
病原体	つつが虫病リケッチア	日本紅斑熱リケッチア	SFTSウイルス	ボレリア属菌
潜伏期間	5～14日	2～8日	6～14日	3～30日 (通常1～2週間)
症状	発熱、発疹、全身倦怠感、 食欲不振、頭痛、悪寒など	発熱、発疹、頭痛、倦怠感 など	発熱、消化器症状(嘔吐、 吐き気、腹痛、下痢、下 血)、筋肉痛など	発熱、全身倦怠感、頭痛、 筋肉痛、関節痛など

また、近年は、ゲノム解析技術の進歩により、エゾウイルス感染症、オズウイルス感染症などの新たなダニ媒介感染症が次々に報告されています。

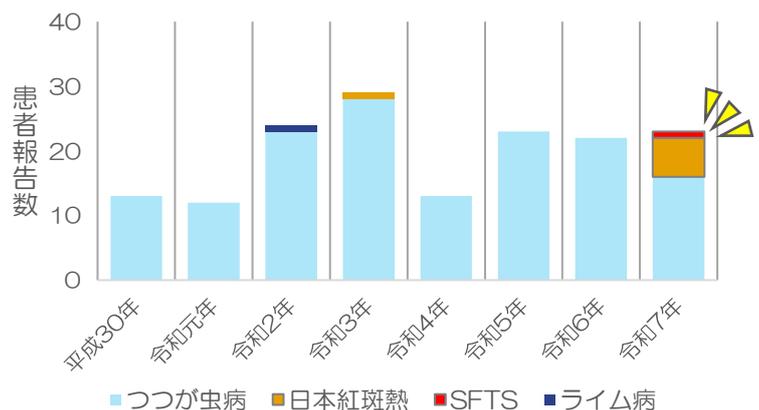
岐阜県のダニ媒介感染症の状況

岐阜県は、全国的にもつつが虫病患者が多く、毎年10～30例前後が報告されています。一方、日本紅斑熱は令和3年まで、SFTSは令和7年まで1例も届出がありませんでした。

ダニ媒介感染症は、病原体を保有するダニの分布に応じて、発生状況に地域性がみられます。近年は、環境の変化などに伴い野生動物が移動することで、病原体を持ったダニも一緒に運ばれて、ダニの分布が変わり、今までその地域では見られなかった感染症が報告される例が各地で見られています。

令和7年は、これまで岐阜県で報告が少なかった日本紅斑熱の患者数が6件(速報値)と増加したほか、SFTS患者も初めて報告されました。従来はみられなかったダニ媒介感染症のリスクが、岐阜県でも増している可能性があり、より一層注意が必要です。

岐阜県におけるダニ媒介感染症患者報告数



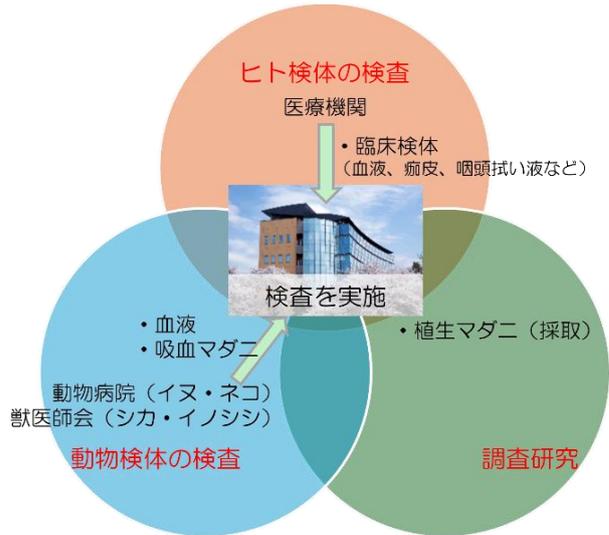
当研究所におけるダニ媒介感染症への取り組みについて

ダニ媒介感染症は、症状だけでは見分けが難しく、確実な診断のためには検査が必要です。医療機関の検査室や民間検査機関では実施できない検査もあることから、当研究所では、医師からの検査依頼を受けて、ダニ媒介感染症の遺伝子検査を実施しています。

また、平成 26 年度からは、県内の動物病院および岐阜県獣医師会の協力を得て、動物病院を受診したイヌ・ネコや、狩猟されたシカ・イノシシから、血液や吸血しているマダニを採取して「病原体を持ったマダニがいるか」、「抗体を持った（＝SFTS ウイルスに感染したことがある）動物がいるか」などを調べています。

これまでの調査で、マダニから SFTS と日本紅斑熱の病原体の遺伝子が検出されたほか、シカ・イノシシの血液からは SFTS ウイルスに対する抗体が見つかっています。現在のところ、病原体を持ったマダニや抗体を持った動物が見つかる割合が年々増えている状況ではありませんが、引き続き調査を続けていきます。

さらに、当研究所独自の調査研究として、植生マダニ（動物に吸着する前のマダニ）を県内各地で採取し、マダニの分布状況や病原体保有状況を調べています。これまでの調査の結果、病原体を媒介可能なマダニは県全域に生息していました。また、日本紅斑熱や SFTS の病原体ではないものの、ヒト症例からの検出が報告されている微生物が検出されており、岐阜県でも注意が必要です。



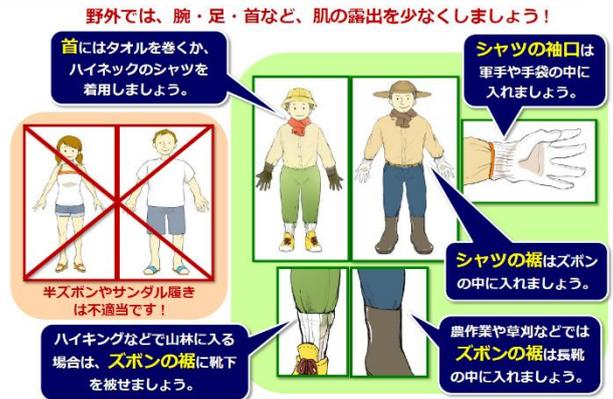
ダニに刺されないために～もしもダニに刺されたら

ダニに刺されないために、野外活動時は虫よけスプレー（DEET またはイカリジン含有のもの）の利用、長袖・長ズボンの着用、早めの入浴などを心がけましょう。登山やキャンプだけでなく、農作業やガーデニング、河川敷や公園も注意が必要です。

マダニに刺されていることに気が付いた場合は、自分で取らずに皮膚科を受診しましょう。

そして、野外活動後にダニに刺されたり、虫刺されの痕（刺し口）を見つけた場合、2 週間程度は体調に注意し、発熱や発疹などがみられた場合は、医療機関を受診し、ダニ（虫）に刺されたことや野外活動の履歴を医師に伝えましょう。

また、SFTS については、ウイルスに感染したネコなどの動物からも、体液などを介して感染する例が報告されています。弱っている動物にはむやみに触れないようにしましょう。



出典：『マダニ対策、今できること』（国立感染症研究所）

（執筆担当：保健科学部）

編集・発行

岐阜県保健環境研究所

〒504-0838 岐阜県各務原市那加不動丘 1-1
TEL : 058-380-2100 FAX : 058-371-5016
URL : <http://www.health.rd.pref.gifu.lg.jp/>



ホームページもご覧ください